

あの戦争を語り継ぐ

平和都市宣言

30周年記念連載⑫

関根千浪さん 88歳

池の上地区在住

朝鮮半島での逃避行

私は、終戦時京城女子師範学校の2年生でしたが、教育勅員（おんべん）による羅南市内の小学校で教生（教育実習生）をしていました。ソ連は8月9日に中立条約を破り満州・朝鮮に侵攻し、12日には艦砲射撃が突如行われました。避難命令が出て、母と連絡が取れないまま、父と私、妹の3人で逃げました。京城（現ソウル）まで避難したものの、38度線より北にいる母と合流するため北上して避難所に収

容されました。12月にもなると寒さと栄養失調で高齢者と幼児は次々に亡くなりました。私たちは家族は脱出を図り、目立たないように2人ずつに分かれ、私と妹は両親と別に行動したのですがはぐれてしまいました。途中、朝鮮の人たちに、食事を分けてもらうなど助けられました。ある日、深い朝霧が急に晴れ、5人のソ連兵が見えました。いきなり逃げるとかえって怪しまれると思い、私は足が、妹は目が不自由なふりをして、恐る恐るすれ違いました。将校のように立派な身なりをしていて、みすばらしい姿の私たちをばかにしながら通り過ぎていきました。素行の悪い一般兵だったらと思うと怖かったです。

結局、朝鮮の警察保安隊に見

つかってしまいました。幸運なことに、署長は日本の拓殖大学を卒業したエリートで「悪いのは帝国主義で、一般人に罪はない」「冬に逃亡しようとする」と凍死してしまう。春までここで待ちなさい」と言って、半年間お世話をしてくださいました。両親が避難所で発疹チフスで死亡したところで聞きました。春になると南を目指しました。春、川に架かる枕木とレールしかない鉄道橋を月影を頼りに何とか南岸まで渡り、米軍の助けで日本に戻ることができました。

◆38度線 朝鮮半島の米ソの占領境界線として38度線より北はソ連が占領し、日本人居留者は抑留や略奪などの惨禍に遭った。

■ 企画政策課男女共同参画室内線 3354